

18. 症状および兆候

文献

富田賢一、北小路博司、本城久司、ほか。夜間頻尿に対する温灸治療の効果-ランダム化比較試験を用いた検討- 全日本鍼灸学会雑誌 2009; 59(2):116-24. 医中誌 Web ID: 2009213798

1. 目的

夜間頻尿に対する温灸治療の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

病院と被験者自宅

4. 参加者

夜間頻尿を有し薬物療法に抵抗を示す泌尿器科外来患者 48 名

5. 介入

Arm 1: 温灸群 (解析に含まれた患者 20 名、男性 18 名、女性 2 名、平均年齢 73±3 歳)、中極穴に 1 週間毎日 3 壮、患者自身が自宅にて施術

Arm 2: シャム温灸群 (解析に含まれた患者 16 名、男性 15 名、女性 1 名、平均年齢 74±6 歳)、熱が十分に上昇しない灸、期間頻度は Arm1 と同様

Arm 1 で 5 名、Arm 2 で 7 名が脱落。

6. 主なアウトカム評価項目

夜間尿回数

7. 主な結果

温灸群の群内比較において夜間尿の有意な減少 ($P<0.01$) が見られたが、シヤム灸群では夜間尿回数に変化は見られなかった ($P=0.551$)。また群間比較においても有意な差は認められなかった ($P=0.306$)。

8. 結論

温灸により 1 日当たりの平均夜間尿回数は減少する。

9. 鍼灸医学的言及

中極穴の選穴理由として、膀胱機能を調節するという効果が期待されていることと、患者自身が温灸治療を行うことに適していることを挙げている。

10. 論文中の安全性評価

温灸群について 3 例、II 度熱傷が確認された。

11. Abstractor のコメント

温度が十分に上昇しない間接灸 (シヤム灸) を対照として行われた研究で、Sham 温灸の妥当性についても評価がされている。灸治療に関する RCT が少ない中、貴重な研究であると考えられる。夜間尿回数というアウトカムを用いているが、この回数が治療群内で有意に減少している点も注目すべき点である。しかしながら Sham との群間比較において有意な差がなく、この点は惜しまれる。また脱落例があるものの ITT 分析は行われていない。初期の患者割付についても症状や基礎疾患に偏りがある可能性もある。自宅での施術という点で、被験者の確保や脱落などの問題を解決し、さらなる研究を進めてもらいたい。

12. Abstractor and date

高橋則人 2010.8.10